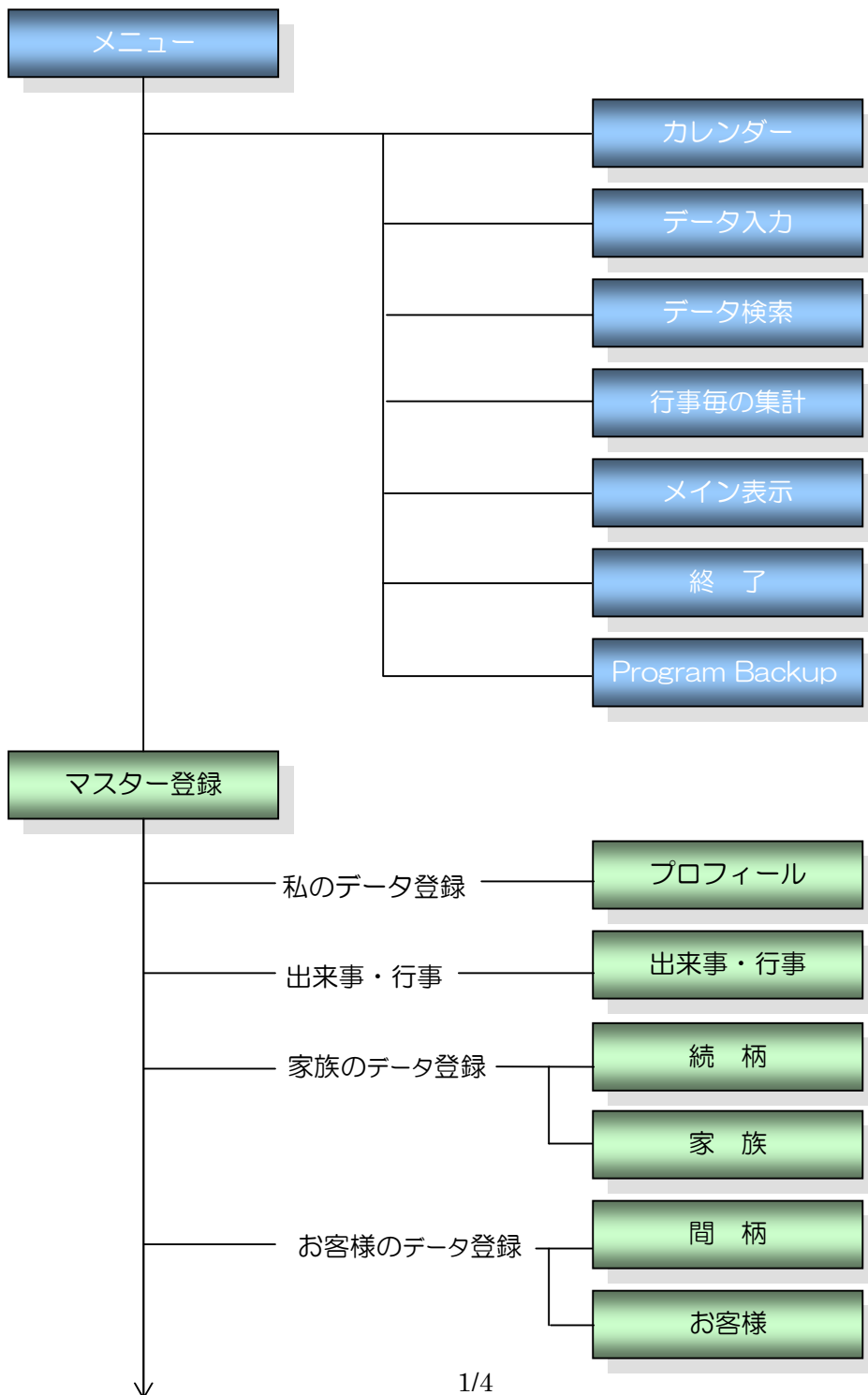


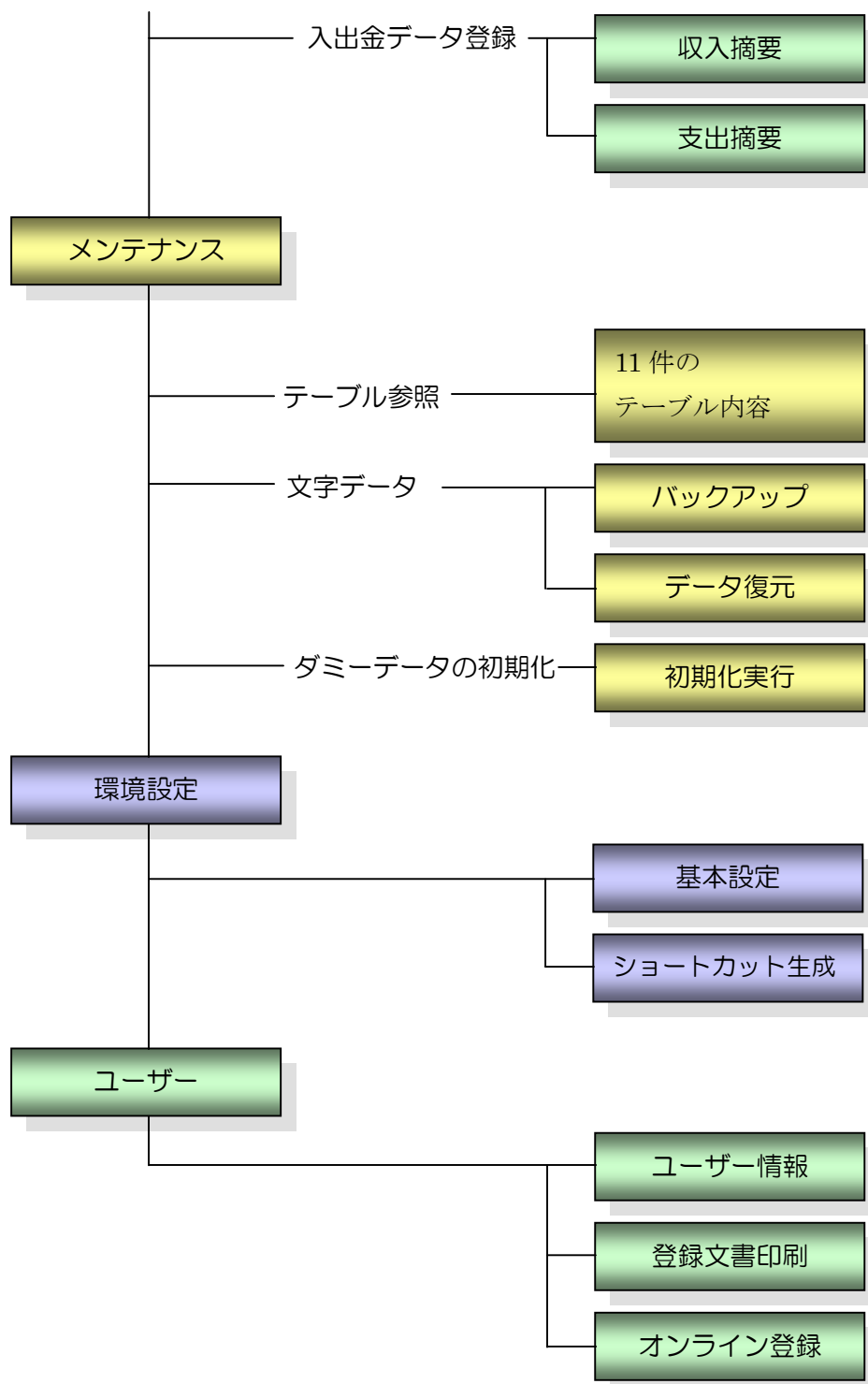
カレンダー検索データベースの特長としくみについて

概要：カレンダーを元に過去・未来の収支を集計し、マルチメディアのデータを取り込んで、オリジナルな自分史をも作成できるマルチメディアシステム。

システムの構造

名称:私の過去未来カレンダー





仕 様

開発言語:MS-Access VBA

対応 OS:Windows Me, Windows 2000, Windows XP

ソフト配布媒体:CD-ROM

運用環境:スタンド・アロン(同一パソコンに5ライセンスまでインストール可能)

インストール及びアンインストール操作:バッチプログラムによるOSの自動認識とメニュー形式。

ランタイム:MS-AccessのシステムがないパソコンのためにAccess Runtimeを添付。

違法コピー防止対策:CABファイルに圧縮してCD-ROMで配布するため、コマンドプロンプトなどの高度な専門知識がないと圧縮解凍できない上、原本のCD-ROMがないとインストール・アンインストール

ールなどの操作は不可能である。

主な機能と特徴

- ① ソフトを起動したとき、Access DB のカレンダー機能にパソコンのシステムクロックより現在日付を設定して当日のカレンダーを表示する。
出来事日付は「PopUp」ボタンよりカレンダーを小さいウィンドーに表示させて、日にちをクリックすることで適宜、入力や変更ができる。
- ② 生年月日を入力したとき、現在日付との間の日数を計算して、満年齢を表示する。
- ③ 現在日付を元にして、過去の収支と未来の予測収支を逐次、集計表示する。
この場合、過去の収支とは、入力当日も含め以前に実際に入金や出金があったもののみであるが、未来の収支については、運用する当事者が予測に基づいてあらかじめ入力されたデータを元としている。
また、アプリケーションを起動することに過去と未来の収支は再計算され、集計表示される。
- ④ 冠婚葬祭などの金銭や物品の授受を記録することによって、相手方へのお返しなどの際に過去の記録をキーワードによる検索機能で参照することができる。
- ⑤ 文字情報、イラスト・デジタルカメラの画像・スキャナで取り込んだ写真、音声などのマルチメディアに対応したデータを当該ソフト(ときの窓アプリケーション)内部に保持することができるので、個別のファイルごとの管理が不要となる。
この機能を実現するには、「埋め込み」というプロパティ(属性のこと)を設定することで実現している。
- ⑥ このソフトは基本的にデータベースを元に開発しているが、検索機能には通常の AND、OR 等の標準検索機能の他、キーワードとなる語句の先頭の一部のみを入力して検索可能な「あいまい検索」機能を盛り込んである。これは相手の名前などをうろ覚えで、はっきりしない時にも部分的に合致する項目をすべて検索表示してくれるので実際の運用に生かせる。
- ⑦ データとしての画像や写真などのファイルを取り込む際に通常使用するエクスプローラを、各フォームの「フォルダを開く」ボタンから、写真フォルダを指定して起動するようにしてあり、OS(オペレーティングシステム、基本ソフトのこと)やパソコンごとに異なるディレクトリ構造(フォルダのこと)を初期の環境設定で設定するようにして、容易に利用できるようにしている。
- ⑧ アプリケーションの操作方法はオンライン・マニュアルの他、サンプルとなるダミーデータをあらかじめ付加してあるため、各フォームやプリント出力を参考にアプリケーションの全体の仕組みが理解でき、操作も容易となる。
このダミーデータはメンテナンス・ページの「初期化実行」ボタンをクリックすることにより、簡単にクリア(消去)することができる。
- ⑨ ユーザー登録は、ユーザー登録ページより「ユーザー情報」を入力して、「オンライン登録」ボタンにより自動でバックグラウンドでの実行が可能である。向後はセキュリティ対策のため、メールソフトは Outlook Express から、MS-Outlook に移行するため、MS-Outlook があらかじめプリインストールされている機種に限定している。
登録電子メールに添付されたユーザー情報の CSV ファイルは、MS-Excel などカンマ区切りのデータとして読み込み、表形式のテーブルに挿入すれば手入力の必要なく、そのまま顧客管理業務に利用できる。
ただし、これら機能を実行するには、インターネットに接続された環境が必要なので、それ以外の

カレンダー検索 DB 資料

場合は、別途「登録文書印刷」からプリンタに印刷したものを FAX または、郵送で販売者に送付するようにしてサポートを容易にしている。

- ⑩ アプリケーションの終了時に、「データベースの最適化」という機能を実行するようにしてデータの修復と圧縮を行っている。
- ⑪ プログラムのバックアップは運用日付を元にフォルダ名を自動生成し、バックアップファイルとしてディスク内に保存している。
- ⑫ 文字データはテキストと数字だけで構成されるもので必要最小限なデータなので、導入初期に環境設定で設定した「文字データ・バックアップフォルダ」ドライブから外部の記録媒体にバックアップすることができる。

「データ復元」で、上記のバックアップデータは復元することができる。

※ マルチメディア・データはプログラムの内部に埋め込まれてあるので、前掲のプログラムバックアップで生成されたフォルダを外部の記録媒体にコピーをとることで、より完全なものとなる。



以上